

鹿屋市立花岡中学校 第1学年

【授業実践のポイント】

- ① 考え、議論する道徳にするために、グループ活動を中心に授業を構成した。
- ② 多面的・多角的に考えるために、補助発問を多く準備した。
- ③ 振り返りシートを活用し、学びを実感できるように工夫した。

- 1 主題名 「公平とは何か」 C— (11) 公正, 公平, 社会正義
 (1) 教材名 「公平と不公平」(「中学道徳1 あすを生きる」 日本文教出版)
 (2) 本時のねらい
 公平か不公平かを判断する際には、相手の立場や状況をよく理解することが大切であることに気づき、差別や偏見のない社会を築こうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

2 授業の展開

過程(分)	形態	学習活動	○主な発問	□指導上の留意点
価値への方向付け (10分)	個	1 公平・不公平に関する事前アンケートの結果を全員で確認する。 2 本時のめあてを確認する。	○ 公平と不公平は、どちらがいいですか。また、それはなぜですか。 ○ どんな時に不公平だと感じることがありますか。 ○ どんなときに公平だと感じることがありますか。 ○ 自分はいつでも誰にでも公平にできますか。	□ 様々な場面において、不公平を感じることはあるが、公平にすることは難しいことをおさえ、本時学習への動機付けとする。
公平・不公平を判断するときに大切にすべきことは何だろう。				
価値の追求・吟味 (25分)	個 ↓ グループ ↓ 全体	3 教材「公平と不公平」の事例を読み、それぞれのグループに分かれ、公平か不公平かを考える。	○ 話し合う事例について、それが公平か不公平か、その判断と理由を合わせて考えよう。 【事例A】 年齢の違いでお年玉の額が違うことは公平か。 【事例B】 障がいがあることによる優先入場は公平か。 【事例C】 字が上手だという理由で、班長がCさん一人にまともをお願いすることは、公平か。 ○ 公平と平等の違いについて考えよう。	□ 事前に割り振っていた事例について考えさせる。 ※ 根拠をもって、自分の考えを相手に伝えることができたか。 □ 公平と平等は違うことに気付かせ、考えさせる。 □ 事例で判断した理由を全体で共有し、大事なことは何か気付かせ、考えさせる。
価値の自覚 (5分)	個 ↓ 全体	4 自分の考えをまとめ、ロイノートで提出し、全体で共有する。	○ 公平・不公平を判断するときに大切にすべきことは何だろう。	※ それぞれの立場に立って、公平か不公平かを考えることができているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの立場や状況を考えること ・ 年齢や性別等で差別されないようにすること 				
振り返り (10分)	個	5 今日の学習を振り返る。	○ 今日の学習をとおして、考えたことや感じたことを振り返ろう。	□ 振り返りシートを使用し、授業の振り返りを行わせる。 □ 振り返りをこれまでの自分と、これからの自分の視点で行い、今後の生活につなげる。

【板書】



① 事例やタイトル等は事前に準備

② ポイントを絞って書くことにより、見やすく分かりやすい板書

- ① 発問や学習課題など事前に準備ができるものは張り物にするなどして用意し、活動時間が長くなるようにした。
- ② 教材の内容を全て板書に書き出すのではなく、ポイントを絞り分かりやすくまとめるようにした。

【ICT機器の有効的な活用】



〈電子黒板にアンケート結果を表示〉



〈ロイロノートのアンケート機能〉

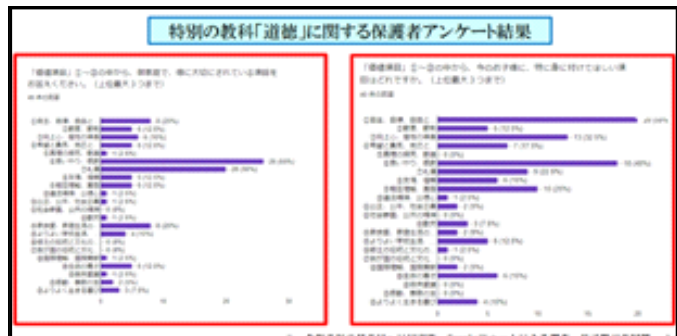


〈タブレットを用いて他者の意見や考えを閲覧〉

- ① ロイロノートのアンケート機能を活用し、授業前、授業後の自分の考えの変容を捉えることができるようにした。
- ② 自分だけでなく、他者の意見や考え方も閲覧できるように設定し、互いの考え方や違いに気づき、多面的・多角的に考えられるようにした。

【家庭との連携】

保護者にも「道徳の価値項目」にどのようなねらいがあるのか理解していただき、学校と家庭が必要だと考える「価値項目」を共有するためにアンケートを実施した。



3 実践を終えて

(1) 成果

授業の中で、教師による補助発問を積極的にすることにより、話し合いが活発に行われ、研究主題である「考え、議論する道徳」につながり、多面的・多角的に考える授業になった。

(2) 課題

事例によっては意見が偏ってしまい、話し合い活動がうまく議論まで発展しない場面もあったので、身近な事例を挙げるなど、多様な意見が出やすくなるような手立てを講じる必要がある。